

豊見城市立豊見城中学校
担当 仲程 俊浩

1 はじめに～新聞を活用することの有効性～

私たちが世の中の出来事を知る手段として、手軽に利用できるものに新聞・ラジオ・テレビ・パソコン・携帯電話などがある。それぞれに長所・短所はある。しかし、情報をプリントアウトしなくても活字として後に残り、電源を入れなくてもいつでもどこでも情報を見ることができる新聞は、日々の出来事を私たちに伝えてくれる便利で重要な情報伝達の手段であり、また、情報が豊富にあるだけでなく、社会的事象や物事への多角的な見方を身に付けさせ、思考力を育てていくのに有効な情報媒体でもある。

さらには、新聞の記事は並列に置かれるので閲覧性や比較性に長けている。直列のテレビやインターネットの情報とは大きく異なる。このことが、新聞を利用しやすく、情報の収集・吟味・選択（判断）を容易にさせている理由だと考える。

新聞記事は生徒の生活を取り巻く社会で起きている出来事や問題を取り上げており、文章の構成もしっかりしている。日頃から授業などで記事を読んだり、内容をまとめたりすることで、生徒の時事問題に対する興味・関心の他に、読解力や思考力、表現力を伸ばすことができる。今回改訂された学習指導要領の基本方針も、新聞記事の活用を通して考える力を育てる NIE の目指す方向と重なる部分がある。

新聞はさまざまに形容されるが、NIE に関して言えば、「生きた教材」である。教科書は編集から発行、生徒の手に届くまで数年かかるが、新聞は昨日のことが今日の朝刊に載せられている。生きた内容だといえるし、記事は現実に社会で起きたことを扱うので、つくりごとではなく、内容が事実・真実のことである。

また、新聞の中には生徒の知らない世界が広がっている。それに日々触れることで、新しい知識が蓄えられると同時に、知的好奇心が刺激されて物事を深く考えるようになる。新聞は社会と自分との関わりを知るだけでなく、生きたニュースを題材に学力を高めることができる「最高の教材」である。

今後も学校と新聞社が両輪となりながら、「新聞って楽しいもの。大事なもの」と生徒たちに感じさせ、喜び・感動・怒り・悲しみ・悔しさなど、社会で起きているさまざまな出来事が載せられている新聞を、周りの記事との関連を含めて学習材として生かしていきたい。

2 実践内容

(1) 新聞に親しむ〈第1ステップ〉

- ねらい**
- ①新聞とはどういうものかを理解させる。
 - ②新聞には自分にもわかる、役に立つ面白い記事や写真があることに気づかせる。

実践内容

- 新聞にはどんな記事が載っているか、面ごとに説明する。
※参考文献 ・池上彰著 2010 年『池上彰の新聞活用術』ダイヤモンド社発行
・池上彰著 2011 年『新聞勉強術』文藝春秋発行

○「四コマまんが」の活用～時事的な内容のときも多い～

新聞は幅広い情報を扱っていることが強みのひとつである。その幅の広さを利用して、生徒が興味を持つ部分から始めたいと考え、年度初めに四コマまんがを活用した。新聞に掲載されている四コマまんがは、時に時事性の高いテーマを取り扱っている。それが生徒の社会に興味を広げる、いいきっかけになると考えた。



【生徒作品】

生徒は話をつくるのが大好きである。あらすじを書くのは、厳密には話をつくるのとは違うが、まんがに自由に説明をつけるのは楽しい作業で、皆興味を持って取り組んだ。

(2) 新聞を読む〈第2ステップ〉

- ねらい**
- ①生徒の興味・関心のある記事から、徐々に生徒に読ませたい記事へと関心の幅を広げる。
 - ②教材としてタイムリーな話題を提供し、生徒の興味・関心を高める。
 - ③継続することで社会（時事問題）への興味・関心、読む力、書く力を啓発する。
 - ④記事の内容の要約等を通して理解を深めさせ、生徒自身が意見等を持つことにつなげさせる。

実践内容

- 新聞の読み方を教える（逆ピラミッド、見出し、リード、5W1H など）

※参考文献 ・池上彰著 2010 年『池上彰の新聞活用術』ダイヤモンド社発行
・池上彰著 2011 年『新聞勉強術』文藝春秋発行

- 授業に関連した記事をノートに貼らせ、教材として活用する。その他、要約や意見、感想などを書かす。 【生徒ノートから→】

- 新聞コメント記入。

- ・毎週月曜日に、先週一週間で話題に上がった記事の一つを選び、色画用紙に貼り付け、各クラスの掲示板に掲示する。
- ・その記事を読んだ感想や意見を書かす。（任意）
- ・適宜授業で取り上げるなどして紹介する。



【生徒から寄せられたコメント】



【記入の様子】

(3) 新聞で考える〈第3ステップ〉

- ねらい**
- ①幅広い分野（政治・経済・国際など）のニュースを理解させる。
 - ②自分の考え（意見）を持ち、発表（報告、討論）することができる。また、発表（報告、討論）を通して、他の生徒の考え（意見）を知ることができる。
 - ③新聞の役割を理解させる。
 - ④幅広い人間教育につなげる。

実践内容

- ファミリーフォーカスの実践。
- 授業に関連した記事について意見を発表させる。
- グループ学習をし、グループごとにまとめ、発表させる。

研究授業の課題
下記【公民的分野に係る授業実践】参照)

実践例

【ファミリーフォーカス〈年5回実施〉】

- ①実践のねらい
 - ・社会的事象についての自分の考えを持つことができる。
 - ・親子で何かのテーマについて話し合う事で、互いの思いや考えを聞くことができる。
- ②実践方法
 - 生徒が興味・関心のある記事を選択し、切り取ってワークシートに貼り付ける。
 - ↓
 - 記事を要約して意見・感想を書き、家族に読んでもらい、家族の方にも意見・感想を書いてもらう。
 - ↓
 - 家族の意見・感想を読み、それに対する意見・感想を生徒が書く。

③生徒と保護者の声（原文のまま）

保護者「意外に会話が弾んで子どもと一緒に楽しめました。米軍基地に対する子どもの感想の中に“日米地位協定”や“9条”の言葉があり、そのちゃんとした考えにびっくりしました。大人もしっかり考えていこうと思いました。（それにしてもおもしろい宿題ですね）」→ → →

生徒「基地に対して親と同じ考えだったのでうれしかったです。私の住んでいる豊見城市には基地はありませんが、おばあちゃんの家が嘉手納なので今度行ったとき、今度は道の駅から実際に見ながら考え話し合ってみたいと思いました」



【公民的分野に係る授業実践】

①テーマ 時事問題に関心を持つ。

- ②目標
- 公民で学習してきた内容と、それに関連する新聞記事を通して、社会的事象（時事問題）に関する知識や社会的な物の見方・考え方、興味・関心を深める。
 - ゲストティーチャー（記者）を通して、社会に関心を持たせる新聞への理解を深める。
 - 学習内容や新聞記事から自分の考えをまとめ、根拠を明らかにしながら発表できる。

③学習の工夫 少人数の班で話し合いやすい場面を設け、意欲的に学習に取り組ませる。また、クラス全体の話し合いにより多様な物の見方を学び合わせる。

④ 授業展開

I、各班で話し合い、テーマを決める。（→10テーマが決定）

「人口問題」「TPP」「裁判員制度」「米軍属、日本で裁判」「死刑制度は合憲」「平等権～男女混合名簿を通して～」「タイの洪水被害～その時、日本企業は～」「八重山における自衛隊基地問題」「臓器移植問題～要美優さん～」「幸福度指数とGDP～ブータン国王夫妻来日～」

II、新聞からテーマに関わる記事を切り抜く。

III、ワークシートに記事を貼り付け、記事を選んだ理由と内容、班のコメントを記入する。

IV、班ごとに発表する。

V、ゲストティーチャーによる講評。



【実際の発表資料】



【班ごとの発表】

⑤ 生徒感想（原文のまま）

- 今まで教科書と新聞を結びつけて考えたことはなかったけど、教科書と社会がつながっているんだと感じました。
- 臓器移植について発表しました。新聞には教科書に載っていない新しいニュースが載っていたので興味を持つことができました。
- TPPの内容はとても難しかったです。（中略）今回のように、今、目の前で起こっている社会問題を毎日新しい情報を映していく新聞で勉強するのは大事だと思いました。



【ゲストティーチャー講評】

⑥ 本授業の成果と課題

〈成果〉

- 新聞記事の特性を生かした学習を展開することで、生徒が社会的事象と向き合い、思考を深めながら自分の言葉や解釈を加えて発表・表現する学習が展開された。
- 新聞は様々な社会的事象を取り扱っていることから、情報源としてはもとより、生徒が自分の考えを深めていく上でも一定の役割を果たすことが分かった。

- 新聞の持つ「繰り返し読める」「詳しく書かれている」「最新情報」といった特性は、理解の遅い生徒に対しても、学習を深める上で有効であることが分かった。

〈課題〉

新学習指導要領では様々な学習が想定され、新聞の担う役割もますます重要になってくる。その中でいかに新聞を活用できるか吟味・検討を図っていく必要がある。

⑦ その他（教師の感想等）

学校の教科教育では、学習が現代社会と隔てられた印象を生徒に与えてしまいがちである。教師は生徒と現代社会とのつながりを意識し、現代社会への理解を向上させることが必要ではないだろうか。その点、新聞は特別な装置がいらず現代社会の話題を簡単に持ち運びできる優れた教材であり、一般的な教室での社会科学習に適している。

授業という社会から距離を置かれた空間において、新聞は現代社会の窓口として授業に活用することができることを本授業で改めて実感した。新聞は現代社会と接点を持つ教室・授業づくりに有効である。実際に新聞を配布すると2週間から2ヶ月ほど前の記事であったにも関わらず生徒は上げて読み出し、学習のきっかけとなった。

今後、新聞を生かした授業実践例を増やし、教師間でも共有していきたい。

（4）その他

NIE活動に関し、昨年までは教師が主導して推進（教師側からのNIEの試み）することが多かった。そこで今年度は、生徒側からの活動を主にした展開方法も検討した。NIEを通して、生徒自らが身の回りの出来事に興味・関心を持ち、主体的に取り組む態度を育成したいと考えた。

① NIEコーナーの設置

「正面玄関から教室へ」。生徒が最も頻繁に通るその動線上に、生徒と新聞との出会いが生まれるように、そしてなるべく気軽に新聞を広げられる環境を作ろうと考え、畳を敷いてNIEコーナーを設置した。

当初は、NIEコーナーに目を向けるものの新聞を手にとって読むような生徒はほとんどいなかったが、やがてそこに新聞があることが当たり前になってくると、学年を問わず多くの生徒が興味を示し、新聞を手にとって読み、記事のことを話題にするようになった。中には毎日のようにNIEコーナーに来て記事に目を通して生徒もいて、新聞に対する興味関心は数段高まったように感じている。



【NIEコーナー】

②NIEクラブによる取材・体験活動

【NIEアワー】

○実践時間 毎日の給食時間

○ねらい

- ・校内放送を使うことで、より多くの生徒にニュースを伝える。
- ・新聞を使うことで、今起きている時事問題への関心を高める。

○内容

〈準備〉休み時間を利用して、紹介する記事2本を選ぶ。（給食時間に話題が広がるよう、地域の出来事などの身近な話題、明るいニュースを取り上げることを心掛けている）

〈実践〉給食時間にその日の担当者が放送室に行き、“本日のニュース”を読み上げる。



【アナウンスの様子】

【取材・体験活動】

〈東日本大震災〉

新聞記事で『東日本大震災特集』を制作中に、「応援や思いを届ける方法はないか」「被災された方々の心に寄り添いたい」等の願いから、暑い夏にどこでも手軽に使える“うちわ”を贈ることを考えた。うちわは被災地に無事届けられた。



【2011年8月3日琉球新報】

〈聞き取り取材体験〉

新聞記者に同行して、沖縄戦体験者の証言を聞く取材活動を体験した。

生徒感想「いつもは新聞を読む側だけど、今回の記者と一緒にするのが取材体験は、記事の書き手の気持ちを実感することができて勉強になった」



【2011年9月24日琉球新報】

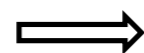
〈新報ジュニア通信員〉

○ねらい： 生徒自身の手によって学校内外の自慢や話題、情報、課題等を見つけ、多面的な取材活動や分析を通して、地元紙に情報提供や問題提示をしていく。

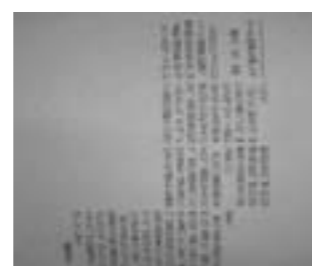
○様子： 紙面に自分たちの記事が掲載されると、生徒やその周囲の大人だけでなく、地域からも感謝や意見等の反響がある。人のために、地域のために活動しているという自覚が強化され、より内発的な動機が高揚し、次の取材にチャレンジしてきた。



【2011年7月10日琉球新報】



〈地域から反響が〉



【2011年7月19日琉球新報「声」より】

〈博物館・美術館取材〉

特別展「宇宙～遙かなるロマンを求めて」の展示会を担当する学芸員を取材した。

生徒感想「宇宙の魅力に触れて楽しかった。反省点は、事前にもっと質問内容を精選しておくべきだったこと。この反省は絶対次に生かしたい」



【2011年8月13日沖縄タイムス】

〈速報記事発行〉

第17回県中学校総合文化祭に参加し、取材・写真撮影から印刷まで行い、1,000部発行した。

新聞を通して得られる情報を単に受容するのでは、受け身の姿勢を持つ読者しか育成できない。本当の意味で新聞にとってよい読者となりうるには、ある記事を書いた記者がどのような



【2011年12月11日1版と2版】

取材を重ね、どのように判断し、どのような考慮を踏まえて記事を完成させるのか、このプロセスを意識して新聞に接することのできる者だと考える。

その意味で今回、速報記事を発行したことは生徒たちにとってこの上ない貴重な体験となった。

(5) 今後の課題

情報化社会の中で、何が正しいのか、何が重要であるのかを選択する能力が望まれている。この点において、新聞の読み方を学ぶことによって、自ら学び、考え、判断する力を培う NIE の活用範囲には大きいものがあるので、さらに研究を深め検討を加えていきたい。